



「9年生の姿に責任を持つ」

4月9日(金)は本校の第69回入学式でした。今年の新入生は53人。どの生徒も立派な姿勢で参加できました。

今年の入学式もコロナ禍での実施ということで、参加人数を制限しての開催でした。本来であれば上級生はもちろんのこと、地域の方々にも見守っていただく中で実施したかったところですが、それができないもどかしさがありました。それでも入学式の会場を作ってくれたのは、9年生・8年生の生徒であり、その生徒らは各教室に待機し、オンラインの配信映像で新入生の姿を見守ってくれていました。(式後の会場の片付けもてきぱきと対応し、上級生としての頼もしい姿を示してくれました。)

各ご家庭の皆様方にとっても、中学校の制服を身にまとったお子さんの姿は、少しだけ大人びて映っていらっしゃったのではないのでしょうか。しかしながらこれからの三年間で、さらにびっくりするほど成長を遂げていくはずです。どうかその姿をしっかり追いつけてあげてください。

小国町の教育関係者の間には「9年生の姿に責任を持つ」という合い言葉があります。私はこの言葉が大好きで、この言葉を聞くたびに背筋が伸びる思いがします。この言葉は、小中学校の各学年の積み重ねを大切にし、中学校を卒業するときに「小国小中学校で学んで良かった」(保護者さん方からすれば「学ばせて良かった」)という思いを持って卒業させることだと理解しています。

本校職員一同、お子様の成長に関わらせていただけることを大変嬉しく思っていますし、お子様への教育を通じて、各ご家庭の皆様方とつながらせていただけることを楽しみにしています。各ご家庭と本校職員とでじっくりと丁寧に話し合いながら最善の関わりをできたらと思っています。あらためてよろしくお願い致します。



【 杖立川と満開の桜 】

「ALL FOR THE NEXT」

4月8日(木)は、本年度就任式・始業式でした。今年、異動してきたのは私を含めて8人。本校に配属されるまでの経歴はそれぞれであり、初任として勤めることになった職員や、大学を卒業して初めて教壇に立つ職員もいます。

私自身に限って言えば、4年前まで教頭として3年間勤務させていただいた学校であり、懐かしさと同時に、大好きな本校とこの町に勤めることができる嬉しさを感じています。

就任式で迎えてくれた生徒のきりっとした姿や気持ちの良い挨拶に、小国中がこれまで積み上げてきた確かな取り組みを感じました。入学式もそうでしたが、コロナ禍での学校運営は、何かと制限されることが多くあります。それでも、こういう状況だからこそできることに目を向けて取り組む本校でありたいと思っています。

本町が掲げる「ALL FOR THE NEXT ~すべては次世代のために~」という基本理念のもと、令和3年度(2021年度)小国中学校を始めます。



【 正面からご紹介したい姿でした 】